

## ICAからの講師が熱弁 「銅が暮らしをつなぐ 賢い金属の選択」セミナー開催

日本銅センターとICA(国際銅協会)は、去る11月17日、18日の両日、東京港区のホテル日航東京で、ICAの活動状況や最新の技術情報などを紹介するセミナー「銅が暮らしをつなぐ 賢い金属の選択」を開催した。

初めに当センターの和田正彦ICA担当事務局長兼国際ネットワーク部長があいさつに立ち、銅センターとICAの業務のかかわりなどを中心に話した。つづいて東京工業大学大学院理工学研究科・里達雄教授が基調講演を行った。銅と銅合金の特性を説明した上で、今後「マイクロ組織やナノ組織を制御することで更なる高性能化が図れる」との見通しを示した。

後半はエアコン等空調機器や自動車における銅の新たな活用策についての講演があり、ICAで銅製品を担当するディレクターナイジェル・コットン氏が欧州のマーケットについて「CO<sub>2</sub>の排出規制では世界の先端を行く努力をしている」と言及し、電気自動車や燃料電池など技術革新が求められる現状を説明した。つづいて技術担当のハル・スティルマン氏が電気自動車の普及で電子部品が増えることを解説。リチウムイオン電池の電極やワイヤーハーネスなどで銅の使用が広がる可能性を示唆し、導電性や熱伝導性が高い銅の特性をアピールした。

会場には大手電気メーカーや自動車会社などから多数参加者があり、現地の最新情報に聞き入っていた。



セミナーの様子



あいさつする和田ICA担当事務局長

# NEWS

## 銅センターニュース

### NEWS 1

## 学校向けに水道用銅管普及促進プロジェクト進む

日本銅センターでは、銅の持つ殺菌性や加工のしやすさなどの特色を生かし、学校施設の水道への導入を促進するプロジェクトを展開している。その一環としてこのほど、東京都日野市南平小学校で初の導入工事を実施、12か所の水のみ場で従来のライニング鋼管から銅管への切替えが行われた。

現在東京都の公立小学校では蛇口への給水を従来の貯水タンク方式から水道管と蛇口を直接結ぶ直結給水への切替えを実施しており、横浜市など全国の水道事業者でも同様の取組みが行われている。このような動きに合わせ日本銅センターでは自治体や施工業者に銅の利点を強くアピール。その結果、最初の切替え物件として南平小学校が実現したものである。



銅管に切り替えられた水道管

第一号事例の南平小学校

## 銅をデザインする ― 銅展開催

日本銅センターでは、去る10月16日～28日、東京新宿のリビングデザインセンター OZONEで「抗菌をデザインする ― 銅展」を開催した。展示は暮らしの中ですぐれた殺菌性を発揮するさまざまな銅製品と美術分野で活かされる鍛金製品を中心に行われた。併せて「食とすまい」（日本料理 分とく山総料理長 野崎洋光氏、佐川旭建築研究所所長 佐川旭氏）、「銅の殺菌性」（北里大学医学部 笹原武志氏）のセミナーも開催され多くの参加者がつめかけた。



セミナー「食とすまい」

## 名古屋水道展に出展

日本銅センターでは、去る10月29日、30日に名古屋市のポートメッセなごやで行われた「名古屋水道展」に水道用銅管および継手を中心に出展した。既報の通り米国環境保護庁（EPA）が銅の公衆衛生における殺菌性を表示することを認可すると発表したが、これを中心に銅の素材特性をPR、展示ブースには全国水道事業者の関係者が来場し盛況であった。



## HOSPEX JAPAN 2008に出展

日本銅センターでは、11月12日～14日に東京ビックサイトで開催された医療・福祉施設のための専門展示会「HOSPEX JAPAN 2008」に銅の殺菌特性を中心に出展した。展示では北里大学医学部および北里大学病院での実証試験により、銅がすぐれた殺菌性を示し、病院環境改善や院内感染抑制に役立つことを紹介。また米国環境保護庁が銅の殺菌力を認め、金属ではじめて殺菌性表示を認可したこともアピールした。



## 第10回エコプロダクツ2008に初出展

日本銅センターでは、去る12月11日～13日に開催された「第10回エコプロダクツ2008」（東京ビックサイト）に出展した。近年脚光を浴びる分野のイベントだけに3日間で17万人の来場者で賑わった。当センターではわが国初となる銅管を使用した放射冷暖房システムおよびベンチヒーター、ハンガーヒーターを出展。エコ効果を体験した多くの来場者から称賛の声が寄せられた。



## 英国から生まれ故郷・萩へ ― 里帰りした幕末の青銅製長州砲

英国王立大砲博物館に所蔵されていた青銅製長州砲(大砲)が生まれ故郷の山口県萩市に一時的に戻され一般展示されている。萩市が主催する「明治維新140年記念事業」の一環として開催される特別展「明治維新の光と影」(萩博物館)で公開された。

この長州砲は口径8.8cm、砲身の長さ185.9cmと大型で、幕末に萩で製造されたもの。なぜそんな大砲が遠く離れた英国に現存するのか、そこには重い戦争の歴史がある。元治元年(1864年)8月、英・仏・蘭・米の4か国連合艦隊が下関沿岸を砲撃した。これは前年の文久3年(1863年)に下関海峡を航行する米・仏・蘭の艦船が長州藩から砲撃されていたため報復措置として攻撃した。この3か国に本来は直接的な被害を受けていない英国が加わったのは、攘夷の拠点である長州藩を叩く絶好のチャンスと捉えたからである。

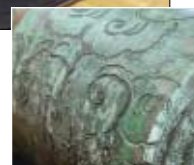
長州砲は射程距離3,000m以上とされる当時最新鋭のアームストロング砲を擁する欧米から完膚なきまでに叩きのめされた。その結果、長州藩が設置した多くの砲台の大砲が戦利品として各国に接収されることとなった。そのうちの一名がこのほど140年ぶりに里帰りの長州砲である。砲身には海外のそれとは異なり美しい文様が施され、日本製ならではの趣をたたえている。



帰ってきた長州砲



下関戦争を報じる「絵入りロンドンニュース」(萩博物館所蔵)



砲身には美しい文様が...

## 地方から“銅”エコ発信! 高松市環境学習「えこじゃんぐる」開催

去る11月1日、2日、香川県高松市で開催された環境フェスティバル2008「えこじゃんぐる」(主催高松市)で“銅の不思議パワー”と題した展示が実施され、親子連れを中心に大いに賑わった。この展示に日本銅センターでは多くの銅製品を提供した。

これを企画したのは市より委託を受けたNPO法人 イー・プロフェス理事長の三村彰裕氏。「環境問題を“認知から理解、行動へ”と動かすために何かチャレンジできたらと考えました。これを“地方からエコ発信へ”と捉え、着目したのが銅の殺菌性です。体験型のフェスティバルだったので、銅の特性が大きな反響を呼びました」。



賑わいをみせる「えこじゃんぐる」



仕掛人・三村彰裕氏

### 総理大臣表彰制度

## “第3回 ものづくり日本大賞” 応募受付中!

日本の「ものづくり」の継承と発展のため  
総理大臣表彰制度“第3回 ものづくり日本大賞” 応募受付中  
受賞者は「ものづくり名人」として認定!!

応募締切は2009年3月6日(金)まで

詳しくはホームページ <http://www.monodzukuri.meti.go.jp/>



今月号は“古くて新しい金属「銅」”に取材の眼をズームアップしてみました。

●カバーワールド―エネルギー革命の最前線／電気自動車(EV)がスタートする。エンジンが消えリチウムイオン電池でエコカーが出現。乗る人の生活スタイルにも影響を及ぼすかも。計り知れない効果を予測させるミクロの世界での「銅」に期待。

●ルポ／銅の軌跡―長登(奈良の[ま])銅山。奈良・東大寺大仏に使われた銅を採掘した鉱山坑内を視察取材。1,300年前のナショナルプロジェクトに思いをはせる。特に銅産業に従事の方々にご見学をお勧めします。

編集デスク 斉藤久嘉(日本銅センター)

〈委員長〉秋元伸二(古河電気工業(株))  
〈委員〉鉱山/塚本弘之(三菱マテリアル(株))、  
植村寛周(パンパシフィック・カッパー(株))、  
永田禎彦(日本鉱業協会) 伸銅/堀田修司  
(株)神戸製鋼所、谷敬三(日本伸銅協会)  
電線/湯谷彰((株)フジクラ)、後藤信之  
(社)日本電線工業会  
(日本銅センター) 田中和雄、宮田充